

重点施策 8 人権文化の根づくまちづくりをめざし、あらゆる 差別、偏見を解消するための人権・同和教育の推進

【施策方針】

日本国憲法は、日本国民に総ての基本的人権の享有を認め、法の下に平等であることを保障している。この法の精神を人権・同和教育実践の中で養い、差別のない明るく住みよいまちづくりを推進するため、生涯学習の観点に立ち教育条件の整備と推進体制の充実、人権尊重の意識の高揚を図る啓発活動並びに人権に関する総合的な学習活動の推進に努め、人権啓発課とともに同和問題をはじめとするあらゆる人権問題解決に努める。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 市人権・同和教育研究大会の開催
- ② 人権問題学習講座の開催
- ③ 連合子ども会交流事業の充実

(2) 施策・事業の実施状況

① 市人権・同和教育研究大会の開催

2月18日(土)に、市人権・同和教育研究大会が開催された。午前中は、「就学前教育、社会教育、家庭教育」「小学校教育、行政・企業・福祉会館等」「中学校・高等学校教育、行政、企業、福祉会館等」の三つの分科会が行われ、午後は全体会として市民約800名が参加して、小・中・高校生の代表による人権作文の発表後、「伝えたいこと～部落問題、その現実から～」と題して、NPO法人人権センターながのの高橋典男さんによる講演が行われた。

② 人権問題学習講座の開催

18年度までは、2地区公民館で4回ずつ計8回開催していたが、開催地区公民館の負担軽減と参加者の固定化を防ぐため、19年度から4地区公民館で2回ずつ計8回の開催に変更し、28年度は双岩、真穴、川上、川之石の4地区公民館において行われた。地域の希望を取り入れ、地域の実情に応じた学習講座の開催を心がけることにより、多数の方に参加していただくことを目指して、外部講師や生涯学習課から社会教育指導員を派遣し講座を実施した。

③ 連合子ども会交流事業の充実

毎年、夏休みの初めに市連合子ども会交流会を開催している。この会を通して、普段顔を合わせる機会の少ない他の地区(校区)の子ども同士が、仲間意識をはぐくみ、お互いを尊重し合い、人権感覚を磨くことができている。28年度は、40名が参加し、中央公民館保内別館においてゲームで親睦を深め、「ダンボールクラフト・水族館」を

制作した。昼食後、伊方町室鼻公園のプールで水泳を行い、子どもたちの交流を深めることができた。

【事務事業点検評価委員意見】

○ 八幡浜市人権・同和教育研究大会は長年継続され、市民の学習の場として定着している。人権・同和教育の成果である。午前の部は3分科会による問題提起や協議が行われ、午後は全体会、児童・生徒による作文発表や講演会が行われている。分科会では意義深い意見が多く、参加者は、常に新たな視点で学ぶことができる。人権作文の発表では、児童・生徒（小・中・高代表各1名）であったが、一般市民代表の発表も行われるようになり、参加者層の裾野の広がりを見せている。一段階前進したとの評価も得ている。

また、「伝えたいこと～部落問題、その現実から～」と題して、NPO法人人権センターながの、の高橋典男さんによる講演が行われた。実際に起こっている結婚差別を取り上げ、当事者の思いや体験をもとに訴える内容で、「心に残るすばらしい講演・・・」という、参加者の声も多い。

○ 地域での人権問題学習講座では、指定地区公民館4館が年2回実施し、指定外の公民館は年1回実施している。地域の希望を取り入れ、地域の実情に応じた学習講座が開かれ、現地研修や講師を招いての学習会が実施され、地域の人権学習の向上につながっている。

今後は多様化する人権問題に対し、公民館職員部会を組織し定期的に研修会を開くなど、人権教育の目的や意義について共通理解を図りたい。そして、よりよい講座を開設するための方法や講師についての情報交換を行いたい。それぞれの公民館で地域の実態に応じた、効果的な人権教育・講座の開催を主体的に行い、人権文化の根づくまちづくりの活動拠点となることを期待したい。

○ 連合子ども会交流会については毎年実施され、他の地区の子ども同士が、上下なく対等な立場で様々な活動を通して、仲間意識を育むことができている。そして、お互いを尊重し合い、人権感覚を磨くことにつながっている。

【自己評価】

八幡浜市人権・同和教育研究大会については、毎年千人近い市民が集い、人権問題を解決するために学習する場として有意義な大会と考えており、今後も分科会・全体会に多くの市民に参加していただける大会になるよう努めていきたい。

地域での人権問題学習講座については、参加者の底辺拡大に力を注ぎ「さらなる一步」を踏み出せるよう関係団体とともに、今後の講座の取り組みを考え、より推進できるよう努めていきたい。

- 連合子ども会交流会については、参加者が年々減少傾向になりつつあるが、短時間の交流会ながら子どもたちの成長を感じることができる。今後も関係部署と連携し、この事業を推進し継続していきたい。